防災教育

「実践的な防災教育の手引き」を活用した避難訓練の実践

新潟市立鳥屋野中学校
藤原壮利(令和４年度)

防災教育に関して、生徒及び当校で実施してきた避難訓練の実態は以下の点が挙げられる。

・避難訓練では、落ち着いた様子の生徒や訓練に主体的に取り組む生徒が多い。
・現実に災害が発生した際に対応できない訓練方法（余震が発生することを想定していない、教師が指示をしてから机の下に入るなど）が見られた。また、訓練を単発で行い、生徒の防災に対する意識や命を守る力を有効に高めることができていない。
・専門家や地域の防災士といった人材との連携が薄い。

これらの実態を踏まえ、避難訓練を取り上げ、以下の３つの手立てを講じることで発表題目に迫ることができると考えた。

1 文部科学省が令和６年に作成した「実践的な防災教育の手引き」の視点を基に、避難訓練の見直しを行う。
2 生徒が自分自身で命を守る力を育むために、避難訓練に限らず、全校で事前・事後指導を行う。
3 訓練計画の立案や訓練当日の指導講評などに関して専門家と連携する。

本実践を通して、以下の成果と今後の課題が挙げられた。

・生徒の主体性と教師の指示のバランス
・防災知識を基盤とした主体性の育成
・継続的な訓練と改善
・教職員の共通理解
・防災教育の充実と教育課程との両立